

鶴ヶ谷地域の課題とその背景

宮城県仙台第三高等学校 普通科

要旨

本研究は鶴ヶ谷地域での特に **abAin** における人々の交流が希薄化していることを感じ、その原因究明と地域活性化へ向けた活動の適切なアプローチを求めるものである。本研究では歴史的側面から街構造に重きを置きワンセンターシステムという都市構造の機能不全が原因と考えた。機能不全を起こしているのは車社会やワンセンターシステムに抗う形での郊外商業施設の誕生である。ワンセンターシステムを機能させるため洛西ニュータウンとまちづくり活動を比較した。するとバスを用いた公共交通機関の利用が機能不全に効果的なこと、また共通して空き家の活用が地域活性化にむけた取り組みであることを考察できた。

1 鶴ヶ谷地域の課題

鶴ヶ谷には **abAin** という商店街があるが今はシャッターが多くなってしまっており人の往来も多いとは言えない。そこで鶴ヶ谷の成り立ちを調べ、なぜこのような現状になったのかを知り、そして現在行っている鶴ヶ谷の再生活動と他の市町村について比較する。その相違点から鶴ヶ谷特有の問題があるのかどうかを考察できた。

2 調査内容と方法

「仙台市史」、「鶴ヶ谷」を読み解き鶴ヶ谷の歴史を通して鶴ヶ谷の今に至るまでを理解する。鶴ヶ谷が現在取り組んでいる地域再生の活動を調べまとめる。鶴ヶ谷地域と他地域の活動とまちづくりを比較して検証する。仙台市史とは市政100周年記念事業として刊行された書籍である。仙台が政令指定都市となるまでの事象を扱っており、本研究では通史編 9 現代から 2 に依っている。

鶴ヶ谷たはまるっと鶴ヶ谷というフェイスブックを通して活動をしているまちづくり団体が鶴ヶ谷を歴史や地理的側面から特徴をまとめた冊子。戦後の鶴ヶ谷を商業施設の **abAin** や大筒見沼を中心とする場所から解説している。

3 調査結果(背景)

鶴ヶ谷団地は戦後の人口増加による居住地不足を改善するために仙台市の行った公共事業によって建てられた街である。**abAin** は鶴ヶ谷地域での商業区として鶴ヶ谷団地と一緒に建てられており戦後から鶴ヶ谷地域の人々の食を支えている。また昭和には **abAin** を中心とした行事が行なわれ人の交流地としても活躍していた。鶴ヶ谷団地建設当初は多く問題となっていた公害に対する都市、「工業と健康都市」というスローガンを掲げた東北最大のモデルニュータウンとして分譲され人気が高かったという。そこで鶴ヶ谷地域での建築方式に注目した。建築方式はワンセンターシステムというものが用いられていた。ワンセンターシステムとは地域の真ん中に人の交流地となるような施設を作りそれを囲うようにして居住区が建つ街のしくみのことである。ここでの人の交流地は **abAin** や市民センターが挙げられる。

しかし交通の発展によって鶴ヶ谷地域外への利便性が高まり、郊外の大型複合施設の誕生によって人の出が集中してしまうなど結果として鶴ヶ谷のセンターである **abAin** の利用が減ってしまうこととなった。

4 調査結果(活動)

本研究では一つの活動に目を向けた。

「NEXT50 鶴ヶ谷」とはつるがや元気会の主催する事業であり、次の 50 年の鶴ヶ谷を見据えたまちづくりを行うことを目標にしている。

「永続的に団地全体の環境維持保全を住民自らが実施できる組織・体制として立ち上げ、団地のブランド価値向上やそれに伴う空き家の減少などを通して、活気溢れる鶴ヶ谷団地を新たな形で創り出す」としている。実行した具体策としてウォーキングマップスタンプラリーの作成を探究活動で三高生が、活用できる空き家のヒアリングをつるがや元気会が主体となって行われた。

5 ワンセンターシステムの比較

ワンセンターシステムを用いた他地域との比較をしワンセンターシステムの再興のための活動には何が良いのかを見出した。比較対象として京都府西京区にある洛西ニュータウンという街を取り上げた。その理由として建設理由が同じくワンセンターシステムを用いている、戦後の居住地不足の解決のため、主に公共交通機関の利用はバスである事がある。**洛西ニュータウンの場合はバスターミナルがセンターに併設し地域住民の買い物が容易、近くに交流のための公園がある。**

鶴ヶ谷地域の場合は絶対的に中心となる施設がなく、公共交通機関がセンターに向けられていないことにある。

上記の通り、NEXT50 鶴ヶ谷は空き家の利用について現在の鶴ヶ谷にある住宅について

調査を行い、通常期→予備期→空き家の段階に分けマップを作る。

洛西ニュータウンの行っているまちづくり活動である SAIKO プロジェクトでは空いている住宅を調査して UR との提携により空き家を安く売ったり、空き家のリノベーションを行い子育て粗大を集めるための活動を中心に行っている。



←(出展:京都市 HP、バス路線図)
センターを囲むように敷設されている



←(出展:仙台市交通局バス路線図)
センター外へと向かうように敷設されている

参考文献

『仙台市史』

『鶴ヶ谷』 まるっと鶴ヶ谷

abstract

This study examines why the Turugaya community declines and becomes less active. Survey with two historical books shows us that the Turugaya community was established with **one center system** and it does not function. Next, I compared this area and another area with one center system. Result, one center system connects gathering people by bus terminal. And I also research the activity to revitalize. Both towns focus on relieving buildings. Therefore, I think that bus terminals and using relieving buildings is key to revitalization in this area.